

ヨセフの墓

日本で発見!!

「聖書」の「創世記」に登場するイスラエル人、預言者ヨセフの墓が日本に存在した！
それは多くの伝説と巨石遺構に包まれたまま、
今もなお、静かに悠久の眠りにこらえているという。
現地より、迫真のレポート！

古代エジプトの宰相になったユダヤの預言者



↑「光は東方より」の著者、山根菊子(写真=八幡書店)。

「超古代日本列島の謎を解く一冊の書物」

昭和12年、一冊の奇妙な本が出版された。タイトルは「光は東方より」。すぐに発禁処分にあい、翌年、改訂版が出されている。言論統制の厳しい戦前のことだ、さぞや過激な内容が……とお思いだ



ろ。確かに、内容は過激そのものだった。ただし、反国家とか、戦争反対だとか、そういう意味の過激ではない。

実は、本のタイトル「光」はイエス・キリストを、「東方」は日本を指していたのだ。つまりこの本は、「若き日のイエス・キリストが日本を訪れ、学び、それをもとにイスラエルで教えを説いた」と主張していたのである。

と書くと、本誌読者ならすぐに「竹内文書」を思い浮かべることだろう。そう、この本の著者である山根菊子(キク)は、「竹内文書」の影響を強く受け、日本古代史の変革を訴えていた。

そもそも「竹内文書」とは、茨城県の皇祖皇太神宮天津教の管長

職である竹内家に、代々伝えられたとされる、神代史の関係資料である。その内容は、元始神の宇宙創成に始まり、神々の地球への降臨、人種・文明の発生、大異変による崩壊などが年代誌的に記されている。そして天津教ではこれを、「世界最古の伝承」と称し、「神代文字」と呼ばれる古代文字で伝えられたもの、というのだ。

伊勢原市郊外のヨセフの墓、真鍮塚。周囲には畑や住宅が並んでいるが、かつてはこの斜面全体が巨大な塚だったと思われる。



ところが第25代武烈天皇の勅命により、5世紀後半に武内宿禰の孫、平群真鳥が漢字仮名混じり文に書き写した。これが今日に伝わる「竹内文書」で、なるほど、事実なら第43代元明天皇の時代(712年)に成立した、日本最古の史書とされる「古事記」よりもはるか以前に成立していた古文獻、ということになる。

「日本を訪れて死んだヤコブの子、ヨセフ」

「光は東方より」によれば、イエスは「昇天」後、再び日本列島を訪れ、遺言書を書いたことになっている(「竹内文書」では、十字架に掛かったのはイエスの弟のイスカリヤスとし、青森の十和田で没した。

「武内宿禰の伯母様? 今も遺る無数の古墳」

東京・新宿から小田急線に乗り、急行で約1時間。神奈川県伊勢原駅で下車すると、しばらくバスに乗り、石倉橋で降りて歩く。

このあたりまでくれば、もうすっかり郊外で、壮大な大山の眺望さえ道沿いの民家の合間から仰ぎ見ることが出来る。

そして、消防署の先を右手に折れ、鈴川にかかる橋を渡った先が、今回の目的地である。



たとする。「常識」から見れば、それこそ一笑に付されて当然の、奇想天外な説だろう。

ただ、その遺言書に「ユダヤンオ・モセスコ・レイニ、ムサツオノ、アフリカノカミニアイシ」と書かれていたのが気になる。

一見、意味不明な言葉ではあるが、「ユダヤ祖王・モセスコ王・隸に、ムサツオノ、アフリカの神に

アイシ」と書くと、「聖書」の内容と見事に一致するのだ。

「聖書」では、アブラハムの子イサク、イサクの子ヤコブ、ヤコブの子12人のなかで11番目の子にヨセフがいるとする。父ヤコブはヨセフを特別に愛したが、それを嫉んだ兄弟たちによって、ヨセフは17歳のとき、通りかかったミディア人に売り渡されてしまうのだ。

られたが、主人は神がヨセフともにもいることを知り、財産から家計の取締り全部をヨセフにまかせようになった。

やがて、その類い稀なる予知能力を認められると、王の夢を解き明かすことになる。7年間の大豊作の後、7年間の飢饉がくること、その豊作年間に穀物を貯蔵することを進言し、王を喜ばせたのだ。

- ↑エジプトの獄屋で看守長の信任を得て、給仕長と料理長の夢を解くヨセフ。(A・イワノフ/ロシア美術館蔵)
- 「伯母様」の地名を記したバス停。かつてこの地方に、武内宿禰の伯母が住んでいたことから、この地名があるというのだが。



ヨセフはアフリカで、110歳で死んだ。死の直前には、「汝らわが骨をここよりたつさえのほるべし」といい、イスラエルの子孫にそれを誓わせたという。

山根菊子は、キリスト遺言書の「ユダヤ祖モセスコ王」とは、実はヨセフのことであると解釈する。なるほど、そう考えれば確かに、「ユダヤ祖王・モセスコ王・隸に、ムサツオノ、アフリカの神にアイシ」は、「聖書」の記述そのものにも思えてくる。

驚くべきはそれだけではない。なんと山根は、ヨセフの墓が実は、神奈川県伊勢原市に存在するというのである!

これは、ぜひとも調べてみなければならぬ。われわれはさっそく、真偽を検証すべく一路伊勢原へと向かっ

↓古代からの聖地・相模大山の遠景。この一帯は、古くから多くの渡来人が訪れ、高い文化と信仰が栄えたところだった。



Josephus

の不動を彫って開眼供養した。そのとき、徳を分かたために虚空に投げ、薬師は日向に、地蔵は裏毛に、不動は大山に落下して、おのおの日向薬師、延命地蔵、大山不動尊になったといわれている。

日向山の中腹には日向薬師の奥の院があり、かつては虚空蔵菩薩も祀られていた。また、近くにある白鬚神社には朝鮮の王が祀られていると聞かすが、その像は白い髭をはやした欧米人のような姿をしているようにも見える。



↑日向山の鏡石。一説に鏡石は、太陽エネルギーを集積する「装置」で、人工ピラミッドには欠かせないものとされているのだ。

日向山の東側には「亀石」という巨石が存在することが一部の人が知られていたが、われわれは今回の取材で、さらにその上に巨石群が存在することを発見した。

中腹には東へ向いた巨大な鏡石、環状列石などがあり、祭壇らしき空間が開けていたのだ。日向山の西方には相模の名峰、大山が聳えるので、日向山は大山の拝殿だった可能性もある。

日向薬師の登山道から奥は、山道から奥は、

←(上)日向山の亀石。右下の人物と比較すると、いかに巨大なものがよくわかるだろう。(下)日向山の環状列石。はるか古代の祭祀場跡だ。



3キロほどで一の沢に達するが、その間に浄光寺、石雲寺、浄光寺旧址などを通る。まさにかつての行者道であって、今もこの道は大山に通じているのだ。

ちなみに、養老2(718)年に華嚴妙瑞という法師によって開かれた石雲寺の当初の名は「医王山雨降院」で、後に開闢の縁起に因んで「雨降山石雲寺」と改められている。

大山の中腹には大山阿夫利神社の下社があり、山頂には奥社が置かれていたが、この奥社はかつて「石尊社」と称し、御神体は立石状に突出した自然石らしい。

山頂部に発見された立石状の露岩は、こうした山自体を神と考え

古代ピラミッドと岩に刻まれた文字

が、注目すべきはやはり、山中



↑山中で発見された石。文様がはっきりと確認できるが、神代文字やエジプトの象形文字だという。→大山阿夫利神社の下社。古代ピラミッドの研究者でもある酒井勝軍によれば、この神は、文字通り「アフリカ」の神だという。

傾倒し、日本とユダヤが協力して神政成就を成し遂げる使命を帯びた民族であると規定した人物である。昭和9年には、「太古日本のピラミッド」を著し、広島

の「葦原山ピラミッド」を発見しているが、その直前、彼はなぜか阿夫利神社へ詣でているのだ。同書によれば、大山阿夫利神社の祭神は不明で、単に「大山阿夫利大神を祀る」とあるが、実は阿夫利加洲の国祖、天支天夫利降尊が御祭神であるという。だからこそ酒井は、最初にこの神社を参拝したというのである。

の位置関係は不自然だ。しかし、その北に真磐塚が、さらにその先には日向山が存在することで、それぞれの位置関係の必然性に納得でき、大山の拝殿である日向山巨石群の重要性を改めて知ることになったのである。

に存在する、岩刻文様(文字?)の刻まれた石だろう。

歴史言語学者の川崎真治氏はその文様を解読し、中国の甲骨文字系統の文字とインドのアシヨカ王に属するアヒルクサ文字、エジプトの象形文字が混在していると指摘しているのだ。

上の段に父なる太陽の神が刻印され、下の段にはシュメールの大地母神「キ」を表す甲骨文字と牡牛神「ハル」を表す甲骨文字が彫られている。また、エジプト象形文字の「フー(日)」も見られる

というのだ。そうすると、日向山との関連にも興味が高くなる。川崎氏は、おそらく山頂の御神体石(未開帳)にも文字が刻まれており、山中の文字石は御神体石に刻印するための練習用だったのではないかと推測する。

一方、山根菊子に先立って「竹内文書」に触れ、日本のピラミッド研究の先駆者となった酒井勝軍によると、大山阿夫利神社はアフリカの神を祀った神社だったらしい。酒井勝軍は、深くユダヤ問題に

ちなみに「葦原山ピラミッド」は、酒井によって日本で最初に発見されたピラミッドであり、2万2300年前の太古に造営されたといわれているのだが……。

さてここで位置関係を改めて考察してみよう。山根菊子によれば、ヨセフはアフリカにおいて風葬され、その骨は分骨されて真磐塚へ埋められ、またひとつは御神体として阿夫利

識して真磐塚が造られ、さらにそれを祭祀する目的で比々多神社が造られたとすれば、互いの関係も理解できる。

比々多神社は霊峰大山を神体山として造営されたというが、それにしては大山と比々多神社



↑大山地方の聖地の位置関係。日向山亀石と真磐塚、比々多神社がちょうど一直線上に並ぶ。また、日向山は阿夫利神社の拝殿にもなっている。